

前回部会における委員の主な御意見

8月30日（金）の第3回環境審議会資源循環部会における各委員からの御意見は下記のとおり
（資料の質問に対する事務局説明等は割愛）【五十音順】。

1 濃沼委員

○意見 1

企業努力の部分の目標値は、市として定めておくべきだと思う。

○意見 2

ゴミ拾い甲子園のような学生・若者を集めてごみを拾うようなイベントを各区で積極的にやっていただくと意識が高まると思うので、
検討してほしい。

2 篠倉委員

○意見 1

実際にごみが集積所に出されている状況を見ると、市民の意識は二つに分かれている印象であり、きちんと分別していない人の行動変
容・意識変革をどうするかが重要である。

3 高橋委員

○意見 1

市民からは「プラスチックの分別等がわからない」との意見がある。市のプラスチックの資源循環に向けて、市民にもう少しわかるよ
うに広報しなければいけないと思う。

4 寺園部会長

○意見1

製品における再生材の利用促進は市だけではできないことが多く、ヨーロッパのように自動車製造時に再生材としてのプラスチックの利用率を一定程度以上義務付けるなど、どうやっていくかは国の課題になる。基礎自治体である市の計画としてはどうしても静脈産業に偏らざるを得ないが、色々な課題出しは可能な範囲でやっていくスタンスでいいと思う。

○意見2

プラスチックだけではないが、1人1日あたりのごみ排出量の目標項目が最も消費量に近く、リデュースの意味も込めた目標項目になっていると思う。

○意見3

廃棄物分野での脱炭素化にはプラスチック対策が重要である。当分野からの温室効果ガス排出は全体の3%と少ないが、だから何もしないのではなく、取り組む必要がある。

○意見4

ゴミ拾い甲子園はナッジとも似ていて、仕掛けを工夫すれば若者も参加してくれる。横に広がっていけば意識づけもされていくと思う。

5 徳野委員

○意見1

ナッジを利用した広報チラシがもっと普及するとよい。

○意見2

プラスチック資源分別率を目標項目として設定しているが、3Rの優先順位を考えるとリデュースが1番大事だと思う。

6 宮脇副部会長

○意見1

プラスチックの資源分別率は、分母の取り方等によっては一律比較がなかなか難しいと思う。収集量ベースと書いているが、実際に市民がどの程度プラを使っているのかが明確でない中、プラスチックをすでに減らしていることもありうる。様々な背景等を調べて、数値目標を設定いただきたい。

7 森川委員

○意見 1

プラスチックの排出量をどう減らすか。減らすのは法人や市民であるが、議会も動かし、法制度化するものはするといった取組も必要である。

8 渡辺委員

○意見 1

産廃の分野での CO2 の削減となると、プラスチック等の熱源としての利用ができなくなる。具体的に脱炭素に向けて何ができるかを示して欲しい。「徹底的」な 3 R はいいと思う。